

令和 7 年度事業報告

1 全体的事項

令和 7 年度において、シルバー人材センターは人生 100 年時代を見据え、地域の高齢者が就業を通じて地域社会に貢献し、高齢者の生きがいや居場所づくりとして重要な役割を担っており、社会経済情勢が回復基調にある中で、地域の特色や実情を踏まえて積極的に取組を強化していく必要があるとの認識の下で、基本目標に

- ①会員の拡大
- ②適正就業の推進
- ③派遣事業への転換と新規事業の開拓
- ④会員の健康維持と安全就業の推進
- ⑤公益法人としての地域貢献
- ⑥健全で適正な会計運営
- ⑦契約方法見直しの対応及びデジタル利用促進への取り組み

の 7 項目を掲げて事業を行いました。

会員の拡大については年度当初の会員数 1,760 人に対し、年度末会員数は 1,715 人であり会員数の減少に歯止めがかかっていません。また新規会員の平均年齢が 70 歳、会員の平均年齢が 75 歳、75 歳以上の後期高齢者の会員の割合が 51%に達し、会員の高齢化も顕著になっています。

このような中で受注状況は、公共が堅調でありましたが、民間は前年比 10% 減、一般家庭は前年比 3.7%減となり、全体で前年比 4.8%減でした。長野県最低賃金の改定に合わせて請負金額積算基準を増額改定しているにも関わらず前年実績に届かない状況は、より深刻に受け止める必要があります。

労働者派遣事業においても、令和 6 年度で前年対比 30%減となった水準を、令和 7 年度でも維持するのがやっとの状況でした。

このような低迷の理由としては、福祉医療関係において法改正により施設の宿直が不要になったことやシルバー委託業務を障がい者雇用に切り替えることが有利と考えられたこと、民間企業において省力化及び定年延長に伴う高齢職員の雇用継続によりシルバー人材センターの利用需要が変化したことがあり、さらに会員数の減少及び高齢化により、一般家庭を中心に各種需要を以前より収益につなげられなくなっていることがあります。

また、インボイス制度による消費税相当分の負担増はセンターの運営にとって小さなものではなく、実績の低迷とともにセンターの収支が2期連続の赤字決算となる要因となりました。

一方で、年度当初から新たな契約方法に転換したことにより、消費税相当分の負担は令和8年度以降においてはかなり減る見込みです。

今後は収支状況に注視してセンターの財務力を確認しながら、会員の拡大や安全就業対策の諸課題、会員が高齢化する中での就業開拓に取り組み、引き続きセンターを取り巻く経営環境の変化に対応していくこととなります。

2 各専門委員会の活動

(1) 総務委員会

令和7年度は新たな契約方法に移行したことから、それが実績に及ぼす影響について注視してきましたが、直接的な大きな影響はありませんでした。

ただし、会員数の減少及び高齢化による収益を上げる力の低下というセンターの構造的な要因、また民間企業における慢性的な人手不足に対応する設備更新の際の省力化、政策による定年延長及び70歳までの雇用推進に伴う高齢従業員の継続雇用により大口の需要が減少し、前年度実績を上回れませんでした。

ア センターの広告宣伝

シルバー人材センターの認知度を高め、入会や発注の契機とするために、上田郵便局のデジタルサイネージ広告の利用、公用封筒や生活ガイドブック、市町村広報誌への広告掲載などを行いました。

イ 指定管理施設の運営

プレー人口が減少し、利用者数が低迷する中で、収支の改善に向けて東信 4 シルバー人材センター連絡会の会員交流大会などの各種大会開催の誘致、上田市に対する老朽機械器具の修繕費の増額要求を行いました。

ウ 労働衛生の取組

労働安全衛生法に従い、衛生管理規程により衛生委員会の設置と産業医を選任して、毎月衛生委員会を開催し、会員の安全と健康確保対策に取り組みました。

エ 地域活動の強化

行事化している傾向がみられた会員懇談会の開催方法を見直し、地域ごとに必要と思われる方法・内容で開催することに変更しました。

(2) 就業促進委員会

令和 7 年度は、コロナ禍以降減少している会員数と就業実績を回復するため会員拡大を最重要課題、就業拡大を重要課題として取り組みました。

会員拡大では、65 歳定年延長の定着化と事業主に対する 70 歳までの就業機会を確保する努力義務などにより新規入会者の獲得には大変厳しいものでありました。また、就業拡大では、会員の減少や高齢化による人手不足により依頼を受けても就業する会員の手配がつかない案件も発生し就業実績は落ち込んでいる状況でした。このような状況に歯止めをかけ会員拡大、就業拡大を図るため、行政の広報誌などによる宣伝活動、行政、企業等が開催するイベントへの参加、就業促進委員による企業訪問や会員募集ポスターの掲示活動、出張相談会の開催や入会説明会の実施回数を増やす取り組みを実施しました。

ア 就業実績

令和 7 年度は、猛暑や異常気象の影響を受けた年でした。請負事業と派遣事業を合わせた実績は受注件数で 16,801 件、前年比 94.6%で 963 件の減少、契約金額では 998,223 千円で前年比 95.6%、45,587 千円の減少となり前年度の実績を超えることはできませんでした。

請負事業の令和7年度の実績金額は898,297千円となり前年比95.2%で44,839千円の減少となりました。最低賃金引き上げに伴う請負金額が上昇しましたが、草刈り、草取り、剪定などの外仕事を行う会員の減少によって仕事の依頼はきても対応できないためお断りする案件も発生し、受注件数は減少しました。

派遣事業についても企業の設備投資による人員削減や物価高騰、送迎業務を行う会員の高齢化などにより就業日数の減少や派遣の解消等があり、実績は99,926千円となり、前年比99.3%で749千円の減少でした。

イ 会員拡大・就業拡大の取組

新規入会者の獲得が大変厳しい状況でしたが、行政の広報誌による宣伝活動や各地区で開催された行政及び企業等が開催するイベントに積極的に参加し、会員募集・就業拡大のチラシ配布をしてシルバーの活動を紹介しました。また、就業促進委員による企業訪問では、新規取引企業の開拓や取引先企業への就業拡大を行うとともに会員募集ポスターの掲示活動では公共施設、商店、企業、街頭等に掲示していただき会員拡大のPRを行いました。さらに、出張相談会をハローワークで実施するとともに、入会説明会の実施回数を増やすことや個別対応を実施して会員拡大、就業拡大に取り組みました。

また、シルバーポイント制を活用した会員による取り組みとして「一人一会員拡大運動」、「一人一新規就業開拓」を実施し、令和7年度の入会者数は171人で昨年度より6人の増加でした。しかしながら、会員の高齢化や病気、家族の介護等による退会者が増加し、全体の会員数は1,715人となり前年より45人減少しました。

《会員拡大、就業拡大の具体的取組》

【企業訪問・ポスター掲示】

カレンダー配布・企業訪問	259 社
会員募集ポスター掲示枚数	100 枚

【イベント活動チラシ配布部数】

いきいきフェスティバル	丸子地区	300 枚
うえだ環境フェア 2025	上田全地区	300 枚
J A フェスティバル真田会場	真田地区	200 枚
産業ミライフエス 2025	上田全地区	500 枚
いきいきシルバー祭り	互助会全体	300 枚
シニア就業支援事業セミナー	参加者	30 枚
横山タカ子氏 講演会	互助会全体	300 枚
女性班きずな全体集会	きずな全体	30 枚

【相談会開催】

7 月～3 月	ハローワーク	12 回実施 (20 人)
各イベント		

ウ シルバーポイント制の実施

就業促進委員会では、「一人一会員拡大運動」、「一人一新規就業開拓」の取り組みや総会・班会・講習会・ボランティア等のシルバー催事への参加意識の向上を図るべく、令和 2 年度よりポイント制を導入し取り組んできました。

《ポイント付与催事等》

定時総会へ出席	1 ポイント	きずな総会出席	1 ポイント
安全講習会へ出席	2 ポイント	新規会員紹介 (1 人)	5 ポイント
懇談会へ出席	1 ポイント	新規就業開拓 (1 ヶ所)	3 ポイント
班会へ出席	2 ポイント	夫婦会員 (毎年)	2 ポイント
ボランティアへ出席	3 ポイント	班長 (毎年)	2 ポイント
		各委員会 委員 (毎年)	2 ポイント

《地区別景品獲得数》

地区	上田地区	丸子地区	東御地区	真田地区	長和地区	合計
6 ポイント で景品獲得	128	30	40	16	33	247
12 ポイント で景品獲得	24	4	3	3	10	44
20 ポイント で景品獲得	3	2	0	0	2	7
30 ポイント で景品獲得	2	0	0	0	1	3
40 ポイント で景品獲得	2	0	0	0	0	2
地区合計	159	36	43	19	46	303

エ 各種講習会の開催

会員等の技能や技術の習得を目的に、県連合会が実施している高齢者活躍人材確保育成事業や当センター独自の講習会を開催しました。

- ① 高齢者活躍人材確保育成事業（厚生労働省から県連合会への委託事業：運営は上田地域シルバー人材センターもタイアップ）

- ・地域における人手不足分野や現役世代を支える分野での高齢者の就業を促進するため、広報活動、就業体験、技能講習などを通じてシルバー人材センターに対する理解を深めてもらう事業を実施しました。

<技能講習>

講習名	講習期間	講習日数	受講者人数
観光ガイド養成講習	6月16日～20日	内4日	13人
庭木・庭園管理講習	9月25日～29日	内4日	9人

<講座&講習会>

講 習 名	講 習 期 間	受講者人数
シニア就業支援事業セミナー	2 月 26 日	30 人

② 独自技能講習・レベルアップ講習

- ・剪定等の技能の習得に時間のかかるものや国補助事業の対象とならない技能講習のほか、事務処理のデジタル化を見据えた上田地域シルバー人材センターの独自講習を実施しました。

講 習 名	講 習 期 間	講習日数	受講人数
派遣高齢者運転講習	7 月 12 日	1 日	8 人
派遣高齢者運転講習	7 月 19 日	1 日	8 人
Smile to smile 登録サポート	各地区	12 回	163 人
松剪定講習	3 月 11 日	1 日	20 人
合 計			199 人

オ 派遣事業

派遣では一部業種ではありますが、就業時間の緩和の許可が通っており、最長 40 時間(運用は 30 時間)までの就業が可能となっています。そのため、製造業などでの長時間就業にも対応できるようになり、企業の要望に応えることができるようになりましたが、設備投資による人員削減や物価高騰などにより就業日数の減少や事業撤退による派遣の解消等があり実績は減少し、令和 8 年 3 月末では 47 事業部所で 106 人の会員が就業しています。

令和 7 年度の就業延人員数は 16,423 人で昨年と比較し 99.0%、840 人の減少でした。派遣を依頼する企業が一定程度固定化される中で、減少した分の新たな派遣先を開拓していくことが必要となっています。

カ 介護予防・日常生活支援総合事業

平成 28 年度から委託事業として取り組んできた介護予防・日常生活支援総合

事業については、29 年 4 月に上田市から事業所指定を受けて委託事業として取り組んでいます。

令和 7 年度の上田地域の実績は、訪問件数 114 件、就業会員は 7 人、契約金額は 956 千円余となっています。

キ 観光ガイド事業

令和 7 年度は、猛暑が続いた影響でバスツアーや少人数の個人の受け入れが減少しました。ガイド回数は 107 回、延人員は 1,454 人で対応をしましたが前年実績を上回ることができませんでした。観光ガイド養成講習会を開催し、新たに就業会員が増えました。

ク 独自事業

会議やイベント会場での上田支部、丸子支部、東御支部の手芸、リフォーム製品販売、J A いずみの里などでの刃物研ぎなどに取り組みました。

わら細工班による注連飾りは春から準備を進め、年末に向けて作製、販売をしています。

*令和 7 年度販売実績

上田地区リフォーム班 112 千円 丸子地区手芸班…22 千円

東御地区リフォーム班… 47 千円 刃物研ぎ（上田地区）…249 千円

わら細工班（真田地区）…6,300 千円

ケ 令和 7 年度ボランティア活動実績

地区名	月 日	場 所	作業内容	参加人員
第 1 ブロック	11 月 27 日	上田城跡公園	落葉とごみ清掃	23 人
第 2 ブロック	11 月 11 日	長池公園	落葉清掃	36 人
第 3 ブロック	10 月 28 日	信濃国分寺公園	除草・草刈	29 人
第 4 ブロック	11 月 17 日	ふるさと公園あおき	清掃作業	24 人

青木地区	3月12日	塩田の郷マレットゴルフ場	落葉清掃	55人
丸子・武石地区	11月21日	ベルパーク	除草・草刈	31人
	11月17日	武石ともしび博物館	落葉清掃	16人
東御地区	7月6日	東御市北御牧庁舎	除草・草刈	7人
	9月6日	総合福祉センター周辺	除草・草刈	14人
真田地区	9月9日	特養アザレアン真田	除草・草刈	18人
長和地区	7月14日	福井記念公園(長門)	除草・草刈	11人
	7月16日	和田宿ステーション付近(和田)	除草・草刈	7人
きずな (上田・青木)	6月12日	上田市指定文化財 倉沢家	除草・草刈	23人
観光ガイド班	4月～11月	上田城跡公園	観光案内	100人
合 計				394人

(3) 安全適正就業委員会

令和7年度は、事故防止につながる体力づくりや安全就業の徹底、高齢者の交通安全をテーマとして講師を招き安全就業・交通安全講習会を開催したほか、安全パトロールの実施、石飛しにくい替刃の斡旋などを通じ、安全な就業や事故防止に注力しました。草刈講習会では草刈刃の製造業者から安全な作業の方法などを学び、技量の向上に努めました。

しかしながら、賠償事故では注意不足が原因と思われる刈払機による飛石事故が多く発生し、防護ネットの設置や石飛軽減刃利用などの対策を昨年に引き続き行いました。また、多くはリスク管理の不十分さや安全意識の欠如によることから、事態をしっかりと認識し事故防止に向けての対策として「野外作業チェックシート」の提出の必須について周知し事故の防止に努めました。

傷害事故では残念なことに剪定作業中での転落又は転倒による死亡事故が発生しベテラン剪定会員を失いました。その他では蜂刺されや骨折等の事故が発生しました。

会員の安全意識の向上、危険予知、ヒヤリハットなど、効果的な安全教育の実施を進め事故防止対策を進めていく必要があります。

ア 事故状況・事故防止について

事故の発生件数は、賠償事故 13 件と傷害事故 10 件で合計件数は 23 件でした。うち飛び石による事故の件数は 9 件でしたが、多くの事故に防護ネットが使われていませんでした。

飛び石事故を防ぐために防護ネットを必ず使おうと強く呼びかけをしても防護ネットが使われていないということは、飛び石事故は他人事だと思っている結果の現れです。事故に歯止めがかからない場合、免責額や保険料が上がることになり、その結果、賠償保険の自己負担額も大幅に上げざるを得ないことになります。飛び石事故を減らすことは発生数の減少に大きな対策となるため、作業前の現場確認（ぬかるみや滑りやすい場所、障害物の有無）、周囲の状況把握（車両や住宅との位置関係等）など、リスクを低減する努力を習慣化し、また、複数での作業においては、作業前ミーティングでのリスクの共有や作業時のそれぞれの配置などの確認を怠ることがないよう会員同士の目配り気配りを徹底することが大切です。

また、傷害事故では蜂刺されや骨折などが多くあったほか、剪定作業中での転倒または転落による死亡事故は思いもよらないことでした。このことを教訓として作業の段取りや作業方法の熟慮、外仕事でのヘルメットなど保護具の着用、正しい三脚の使い方など、安全就業の徹底を全会員に周知しました。ケガの治療には時間を要し、就業への影響につながるため、自分自身での安全確認をしっかりと行うことが大切です。

(1) 賠償事故

No.	就業内容	事 故 概 要	損害状況
1	伐採作業	伐採木の倒れる方向がずれて別荘の屋根を壊す	屋根破損
2	草刈作業	草刈作業中、飛石により浄化センターの窓ガラスを破損	窓ガラス破損
3	草刈作業	畔草刈作業中、飛石により隣接する住宅の窓ガラス破損	窓ガラス破損
4	草刈作業	青木村グランド周り草刈作業中、飛石により走行中の車のボディを傷つけた	ボディにキズ
5	草刈作業	建屋と電柱の間に配線されていた電線を切断してしまった	電線破損
6	草刈作業	上の段の駐車場に駐車していた車の後部ガラスを石飛により破損	窓ガラス破損
7	草刈作業	草刈作業中、飛石により配達中トラックの窓ガラス破損	窓ガラス破損
8	草刈作業	草刈作業中、インターネットケーブルを切断してしまった	ケーブル切断
9	草刈作業	草刈作業中、飛石のため通行中の車の車体を傷つけた	ボディにキズ
10	草刈作業	草刈作業中、飛石のため駐車している車の車体を傷つけた	ボディにキズ
11	草刈作業	霊園の草刈作業中、お墓参りに来た車に石が飛び窓ガラスが割れた	窓ガラス破損
12	草刈作業	市営住宅の草刈作業中、飛石のため車のリアガラスが割れた	窓ガラス破損
13	水道検針	水道検針中、体勢を崩しハンディターミナルを花壇の煉瓦にぶつけ液晶部分が破損した	ハンディターミナル破損

(2) 傷害事故

No.	就業内容	事故概要
1	道路パトロール	支障木伐採中に鋸が枝に引っかかりロープで引っ張ったところ鋸が頭に当たり裂傷した
2	水道施設点検	配水池の点検を終えて門を出ようとしたとき蜂に刺された
3	草刈作業	草刈作業中に右肩と右ひじの2か所を蜂に刺され39度の熱が出た
4	草刈作業	さつきの根元の草を鎌で刈っていた時、スズメ蜂に左手の甲を刺された
5	施設管理業務	台所で利用者に声をかけようとした時、つまづいて転倒し、おでこから出血し数針縫った、左肩や背中も打撲した
6	清掃作業	清掃中、玄関付近で転倒して顔が腫れ上がり、右頬に擦り傷、両ひざ打撲等負傷した
7	剪定作業	剪定後、枝木を細かくする際にハンディソーが跳ね返り左手人差指を挫創した
8	剪定作業	剪定作業中、転倒又は転落のため急性硬膜下血腫のため死亡
9	バラの剪定作業	剪定作業中、物干竿で左目下を強打し打撲、敷石の段差で右足の甲を骨折した
10	剪定作業	剪定作業中、体の向きを変えようとして足が滑り三脚から飛び降りて右足甲を骨折した

イ 安全パトロールの実施

連合会の安全・適正就業対策推進委員による安全パトロールは8月に実施され、剪定作業では安全就業に徹底されていると評価されました。

更に、地区単位での安全パトロールは、7月から9月にかけて実施し、実際に草刈りなどの作業現場のほか、事故発生現場での検証を行いました。

また、確認項目として、作業前ミーティングの実施、作業に見合った身支度、ヘルメット着用の徹底、防護ネットの活用、駐車車両の有無などをチェックし安全パトロールを実施しました。

ウ 石飛軽減刃「石飛番（いしとばん）・石トバサース」の斡旋

飛び石防止効果では一定の評価があり、切れ味や耐久性でも肯定的な意見が寄せられました。同替刃の利用を促していくとともに、より飛び石事故が発生しにくい替刃の調査を行っていきます。

エ 安全標語の募集

～石飛びは ネットで防護 事故はゼロ～

安全標語の募集には、20作品の応募がありました。安全適正就業委員会での審査において、大久保善司さんの作品【石飛びは ネットで防護 事故はゼロ】が最優秀賞に選ばれました。

作品の全ては、長野県シルバー人材センター連合会の安全・適正就業標語に応募しました。

【令和7年度安全標語表彰作品】

(敬称略)

受 賞	氏 名	地区	作 品
最優秀賞	大久保善司	丸子	石飛びは ネットで防護 事故はゼロ
優秀賞	両角 澄子	丸子	生きがいも 責任も あなた自身がつくるもの
優秀賞	窪田 利幸	上田	無理しない これ位大丈夫が 招く事故

(4) 広報委員会

事業計画に従い、「上田地域シルバーだより」を年5回(4月、6月、9月、11月、1月)発行しました。また、速やかな情報提供と会員間の情報共有を実現するため「お知らせ版」を毎月発行しました。

「上田地域シルバーだより」の発行に当たっては、企画の段階から委員会でアイディアを出し合い、読み易く会員にとって有意義な誌面となるように心がけました。そのため、表紙の内容から精査し、取材活動も積極的に行って、内容を充実させました。

「お知らせ版」の発行は、広報誌の発行を年5回に集約したことの補完としての役割がありましたが、会議や行事の開催案内、事務局からのお知らせやお願いといった情報が、時期を逃さずに迅速に、まとまった形で会員に提供できる手段として定着し、他のセンターや関係機関に対する広報の役割も担った広報誌と、会員向けの情報提供に役立つお知らせ版という2本柱での情報提供体制が確立されました。

また、今後入会対象年齢になる世代はデジタルでの情報取得を行ってきているので、この2本柱の情報発信方法のデジタル化について、今後の課題として位置づけました。

(携帯メールサービス登録会員数)

令和7年度実績 (3/31 現在)

就業案内登録者	5 4 5 人
情報発信件数	1 0 3 件

(Smile to Smile 登録会員数)

令和7年度実績 (3/31 現在)

会員数	1, 7 1 5 人
登録者数	6 4 5 人
登録率	3 7. 6 %

（５）女性班きずな

女性班の名称を「きずな」として14年目となりました。全体集会では、上田市出身で活躍されているシャンソン歌手の榊原舞氏、シンセサイザー奏者の山崎さだみ氏をお招きし「春色コンサート」と題し演奏会を開催し好評でした。

また、令和7年度は重要文化財施設の草取りボランティア活動、フラワーアレンジメント講習会、寄せ植え講習会、そばうち講習会、リース作り講習会、認知症予防講習会、健康づくり講習会などを実施し、女性会員の横の繋がりを強化しました。女性班として未会員の方にも講習会への参加を認め会員拡大に繋げていくよう努力しました。

（６）氷見市シルバー人材センターとの交流

11月27日に姉妹提携をしています氷見市シルバー人材センターの役員研修があり、6年ぶりに役職員14名に上田市にお出でいただきました。

視察事項は「女性班の活動」ということで、関係者からご説明しました。

夕刻からは会員互助会の役員の皆さんも加わって懇親会を開催し、変わらぬ親交の深さを確かめることができました。